



林業技士会 ニュース

No. **176**
2026

編集・発行人



一般社団法人
日本林業技士会

〒102-0085

東京都千代田区六番町7番地 日林協会館2階

TEL 03-6737-1271 FAX 03-6737-1296

Eメール info@gishikai.jp

URL http://www.gishikai.jp/

視点

造林作業の機械化の現状と未来



森林研究・整備機構 林業工学領域長 山口 浩和

1. はじめに

日本の人工林は本格的な利用期を迎えているが、伐採後の再造林率は近年 30～40%にとどまっており、森林資源の持続的な利用が危ぶまれている。再造林が進まない背景には、植栽・下刈り・獣害対策など初期造林にかかるコストの増大、林業従事者の減少と高齢化、所有者の経営意欲の低下、機械化の遅れによる作業効率の低さなど、複数の構造的課題が存在する。特に造林作業は依然として人力に大きく依存しており、労働負荷の高さと人材不足が再造林の停滞を加速させている。

このような状況のもと、伐採から再造林までの一連の森林管理サイクルを確立し、森林資源の持続的利用を実現するためには、造林作業の省力化・効率化を可能とする新たな技術開発が不可欠となっている。造林作業の機械化が進まない要因は、造林地の多くが傾斜不整地にあり、伐根や岩等の障害物が車両系機械の林地への侵入を妨げていることにある。そこで、最小限の機械力を使って人力作業の負担を軽減するとともに作業効率を高めることで、人手不足の解消と労働生産性の向上、さらにはコスト削減を達成することを命題として、森林研究・整備機構では、エルヴェラボ合同会社および茨城県森林組合連合会の3者共同で、電動クローラ型の小型造林作業用車両の開発と製品化を進めている。

目 次

視 点 造林作業の機械化の現状と未来

森林研究・整備機構 林業工学領域長 山口 浩和 …… 1

総 会 報 告 一般社団法人 日本林業技士会 第3回定時総会を開催 (一社) 日本林業技士会 …… 6
(総会資料) (一社) 日本林業技士会 …… 7

支部活動報告 令和7年度 日本林業技士会・長野県支部研修会
(一社) 日本林業技士会 長野県支部 …… 18

林業技士ベンキョウ室 高性能林業機械による作業システムと生産コストについて
(一社) 日本林業技士会会長・東京大学名誉教授 小林 洋司 …… 20

あ と が き …… 24